

高体連ニュース

発行所
山形県高等学校体育連盟
山形県スポーツ会館内
電話 023(624)0929
発行人 高藤 俊昭
編集 広報委員会
印刷 徳大印刷

冬季インターハイ(スケート・スキー) 新戦力の台頭で 県勢健闘!!

矢口(北村山1年)が準優勝

- スキー・女子フリー10km -

須郷(山形中央2年)も5位入賞

- スケート・女子1000m -



米沢工業高校スキー部は、県内唯一のアルペン・クロスカントリー・ジャンプの三セク

「全国高校スケートアイスホッケー選手権大会」が、一月下旬から二月の月上旬にかけて行われた。県勢は、昨年入賞ゼロのスケート陣が入賞二でまずまずのスタートを切ると、地元国体のボストンシーズンでやや不安のあったスキー競技でも健闘、入賞九を果した。スケート・スキーともに、一・二年の活躍が目立ち、次年度へ期待の膨らむ大会となった。

「日本一」を目指して

山形県立米沢工業高等学校スキー部

シヨンの選手が揃っており、特にジャンプ陣は、毎年全国大会で上位入賞する常連校です。

OB(坂野幸夫、柴田康宏、鈴木康哲)も北海道の企業に進み目覚ましい活躍をしており、スキー・ジャンプ競技は冬の競技ではありますが、北海道・長野県・秋田県・新潟県などの強い所には立派なサマー・ジャンプ台があり一年を通して技術の向上が図れる施設が完備されており、残念ながら本県にはサマー・ジャンプ台がないので、夏場は土曜・日曜を利用して、



自分の滑りで見事準優勝の矢口選手(北村山)

第五十四回全国高校スケート・アイスホッケー選手権大会は、八戸市を中心に青森県内で一月二十三日から二十七日までの五日間の日程で開催された。本県からは、スピードスケート競技に十一名の選手が出場。女子一、〇〇〇mでは、須郷選手(山形中央)が、スタートから果敢な滑りを見せ五位入賞を果たした。また、男子一、〇〇〇mでも長谷川正樹選手(山形中央)が八位に入り、初の全国入賞となった。スケート競技は、昨年の屈辱を晴らすことができると同時に、須郷・長谷川両選手は共に一・二年生、更に、入賞は逸したものの一・二年の選手も、全国への手応えをつかんでおり、来季は今年以上の成績が期待される。

キー大会は、白銀の尾瀬の大地に、君が飛ぶ、をスローガンに、群馬県片品村で二月五日から五日間の日程で開催され、五二名の本県選手団は、昨年の入賞数十二には及ばなかったものの、入賞九を果たし、「スキー王国山形」の面目を保った。

この大会で活躍が際立ったのは、クロカン女子の矢口小百合選手、北村山二年生である。二日目の五kmクラシカルで四位入賞を果たすと、その集中力を次の日の一〇kmフリーでも持続させ、会心のレースで準優勝を掴んだ。また、出口選手以下一年生三人だけの出場となった北村山高校は、他に齊藤友理選手が、女子一〇kmフリーで十位に、女子

用し秋田県、長野県などに遠征し技術の向上を図っており、ノーマルヒルで八三km、ラージヒルでは九三kmのスピードで空中に飛び出す競技であり恐怖との戦いのスポーツです。一年を通してスピード感を持ちながら技術の向上を図っており、いかなる状況でも決して弱みを感じず、選手層も厚く、厳しい状況の中で、北海道・長野に追いつけ追い越せと頑張っています。越えなかつたチャンスをものに出来ず、過去の大会では一位が最高の成績でしたが、この夏二年生の佐々木悠兵がサマー・ジャンプ大会で二勝し、大きな自信をつけました。

今シーズンは、先輩方



も達成出来なかった、日本一を目指し日々努力し頑張っており、



スタートからスピードに乗った須郷選手(山形中央)

一五kmリレーでも九位に入り、女子学校対抗四位入賞という素晴らしい健闘を見せた。残念だったのは、昨年の地元イオンスタジアムで五位入賞を果たしたが、もう一歩の所で表彰台に届かなかった。男子スペシャルジャンプの佐藤貴憲選手(米沢)も、昨年の六位を上回ることで九位入賞となった。しかし、女子スラローム(日大山形)が、若田佳央選手(日大山形)から、女子スラロームで二年生ながら七位入賞するなど、クロカン勢同様来季への手応えもある大会であった。

スケート・スキー共に来季は期待できるが、是非今年度実現できなかった優勝を目指してほしい。

県高体連 ホームページ開設

本高体連では、事務局に問い合わせの多い、各種大会の日程や場所、また大会結果などを中心としたホームページを、来年度から開設できるように準備を進めております。

現在、四七都道府県の高体連でホームページを開設している事務局は十四、年々増加傾向があり、本県でも、各種大会内容や結果、各委員会の活動内容など、高体連に関わる様々な取り組みについて、広報していく予定です。各方面から御意見をいただき、内容の充実したものにしてゆきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

なお、アドレスは、高体連ニュース第五四号に掲載します。

少林寺拳法は映画だけではありません

専門部が県高体連に正式加盟 現在三校が活動中

映画「少林寺」を見た人は、その動きのすばらしさ、人間の限界を超えた能力に目を奪われ、心惹かれた人も多いことでしょう。その少林寺拳法が、本年度から高体連専門部の仲間入りしました。

県内で活動中の仲間入りは、日大山形・山形学院・酒田工業の三校で、競技人口は約四〇名と、まだまだ小規模ですが、県内にある少林寺拳法の道場や、連盟の方々の協力をいただきながら、競技人口の拡大に取り組んでいるところ。山形県のレベルはまだこれから、ということですが、それだけ可能性があると云えます。映画だけでなく、実際にあなたも取り組んでみませんか。

平成16年度 山形県高等学校スキー大会成績一覧

種目	順位	氏名	所属校
ジャイアントスラローム【男子】	1位	国分 惇	日大山形3年
	2位	清水 宏康	山形中央3年
	3位	齊藤 俊樹	日大山形3年
スラローム	1位	鶴岡 優利	日大山形2年
	2位	清水 宏康	山形中央3年
	3位	岡崎慎之介	日大山形1年
クロスカントリー-10kmクラシカル	1位	有路 健太	真室川3年
	2位	伊藤 圭人	金山3年
	3位	五十嵐隆介	新庄北3年
クロスカントリー-15kmフリー	1位	小野 智彦	金山2年
	2位	伊藤 圭人	金山3年
	3位	有路 健太	真室川3年
クロスカントリー-リレー	1位	金 北村山高	
	2位	真室川高	
	3位	新庄北高	
スペシャルジャンプ	1位	佐々木悠兵	米沢工業2年
	2位	佐藤 貴憲	米沢工業3年
	3位	佐藤 貴吾	米沢工業1年
コンバインド	1位	安藤 政典	米沢工業2年
	2位	丹 勇一朗	米沢工業3年
	3位	高橋 克昌	米沢工業1年



「チーム山形」として全国を舞台に活躍できる選手の育成を目指し、中・高体連が連携して

今年度の特徴

一、部活動加入率の増加
全国的な少子化、それに伴う高校の統廃合が具体化される中、平成十六年度(全日五月現在)県内高校生数四〇、七六六、全国三番目、高体連部活動加入人数二、九四三名(全国二番目)と加入率五二・一%(全国二番目)と近年、実数・加入率ともに増加傾向の現状にある。

今後益々、幅広い選手層に対する質の高い指導力が求められ、研修の場や機会充実を図っていく必要がある。

二、全国での活躍
夏季全国大会では、優勝三を含む九位以内入賞三〇(入賞数全国三〇番目)と健闘した。技術力のレベルが高いだけでなく、人作りにつながるメンタル的な総合力を少しでもレベルアップさせた選手や指導者と一緒に、多岐にわたる評価される。全国競技選手権大会は、入賞十六、中でも馬術とカヌーの活躍が目立ち、冬季全国大会の活躍が目立ち、冬季全国大会の城北高校が十五位と健闘した。

頂点を目指して

中高体連選手強化講習会

「チーム山形」として全国を舞台に活躍できる選手の育成を目指し、中・高体連が連携して今年度の選手強化講習会が十二月十八・十九両日、一月二十九・三十両日の二回にわたって県内有力中高生を集めて県総合運動公園を会場に行われた。勝田隆教授をはじめ仙台大学の四人の先生や多くの学生たちを指導者として、運動理論やメンタルトレーニングの講義を受けた。ワークショップや具体的なトレーニングの方法の実践、さらには栄養相談、メンタル相談までその指導は多岐にわたる。受講者も目を輝かせて真剣に参加していた。

富樫郁遣

県高体連理事長

スケートの入賞。スキーでは、最上国体の翌年という高い期待の中、入賞九数と昨年の十二に及ばなかったものの、一年生の活躍が目立ち、来年度への期待が高い大会であった。

今後の課題として、上位入賞を二桁確保し、入賞三〇・三五を安定して継続していく力をつけることと求められる。そのためにも、各専門部と競技団体の連携による組織的な強化を推進し、各校での強化組織体制の充実が求められることを期待している。

全国的に、女子の全国的活躍が印象深く、男子の奮起に期待するところがある。団体種目の競技力向上が依然として課題に残留している。この一年、各種目会場を激励し、このような場面に遭遇した。競技終了後、道具を投げつけ、負けた悔しさをぶつける選手もいる。それを監督やチームメイトが片付けてくれる。それも、大会関係者が始末する光景。負けても相手に握手を求め、譲る選手もいる。

「自分の分身の道具が泣いていないよ。だから勝てないんだ。」と思わず、ぶつかった場面があった。勝てない要因が技術力以前のところにあることに気づく。そこにこの大会で、技術力のレベルが高いだけでなく、人作りにつながるメンタル的な総合力を少しでもレベルアップさせた選手や指導者と一緒に、多岐にわたる評価される。全国競技選手権大会は、入賞十六、中でも馬術とカヌーの活躍が目立ち、冬季全国大会の活躍が目立ち、冬季全国大会の城北高校が十五位と健闘した。

一年を振り返る

富樫郁遣

高体連強化五カ年計画の四年目を迎えた本年、夏季・冬季競技ともに充実した活躍を示してくれた。目標を高く掲げた、指導陣の日々の尽力と選手諸君の地味練習の積み重ねが成し得た成果に改めて敬意を表したい。また、際立った成果を残せなかったものの、紙一重で悔し涙を流した選手が、次年度に向けたエネルギーに転化させている声や活動風景を見聞きすると、強化計画最終年度に向けた夢と力の可能性に大きな期待を寄せられている。

一部写真は、山形新聞社より提供していただきました。

全国高校サッカー 全国選抜バスケット男子 全国高校駅伝女子

高校スポーツの冬の風物詩としてすっかり定着した駅伝、バスケット、ラグビー、サッカーなどの全国大会が各地で開催され、山形県勢は多くの種目で昨年の成績を上回り、入賞まであと一歩というベスト16前後に三連目に入る健闘を見せた。本県勢の課題となっていた球技種目に明るいきざしが見え始めた。

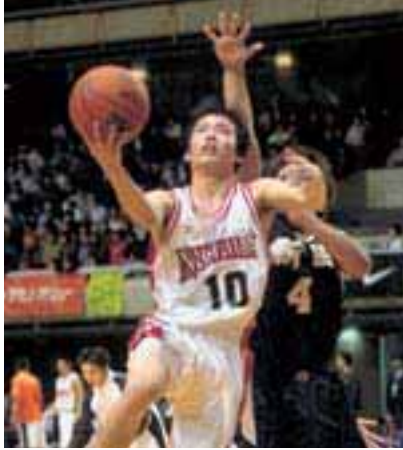


石山選手(山形城北)全力を出し尽くしてのゴール

寒さは味方! 県勢の活躍光る

- 冬の全国大会・東北高校新人大会 -

県勢を勢いに乗せたのは全国高校駅伝で女子の常連校となった山形城北であった。京都・都大路を常に上位で走ることが好位置で走り切り、



森選手(日大山形)鮮やかなレイアップシュート

昨年より六つ順位を上げ十五位でゴールした。来年度こそは初入賞を期待したい。全国高校選抜バスケットボール大会に出場した日大山形男子も、実力を発揮して新潟(愛媛)、土浦日大(茨城)を連破しベスト16に進出。新潟商業に敗れ、惜しくもベスト8入りは逃したが、全国上位進出に確かな手応えをつかんだ。全国高校ラグビー大会に出場した山形中央は、一回戦を大差で突破し二回戦でもシ

ド校京都成章相手に先制トライを奪うなど健闘したが、京都大型FWの徹底した力攻めに、後半差を広げられ敗れた。力を出し切ったの敗戦だけに花園ラグビー場での地元地元大観衆からも、惜しみなない拍手が送られた。全国高校サッカー選手権大会に出場した羽黒は、初戦の城陽京都戦を、一からのPK戦で制す。新年を祝うように明け二日の秋田商戦に快勝。ベスト8をかけて臨んだ多々良学園(山口)戦でも前半二点をリードする展開に持ち込みながら、よもやの逆転負け。それでも初出場でもベスト16進出は、山形県勢の躍進の証。山形県勢の躍進の証。山形県勢の躍進の証。

東北高校新人大会上位入賞一覧

個人は優勝者のみ、団体は3位まで

男子		女子	
1位	陸上競技 110mH 阿部 裕貴(山形中央)	1位	陸上競技 800m 高橋 由衣(酒田東)
	陸上競技 棒高跳 阿部 祐史(橋岡)		陸上競技 1000m 池田奈津季(酒田中央)
	陸上競技 砲丸投 佐藤 真展(九里学園)		陸上競技 1500m 山形城北
	陸上競技 ハンマー投 佐藤 弘司(米沢中央)		陸上競技 2000m 後藤 麻衣(山形北)
	陸上競技 ハンマー投 鈴木 達也(九里学園)		陸上競技 3000m 後藤 麻衣(山形北)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 5000m 後藤 麻衣(山形北)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 10000m 後藤 麻衣(山形北)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 15000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 20000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 30000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 40000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 50000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 60000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 70000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 80000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 90000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 100000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 110000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 120000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 130000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 140000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 150000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 160000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 170000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 180000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 190000m 後藤 俊介(庄内総合)
	陸上競技 八種競技 後藤 俊介(庄内総合)		陸上競技 200000m 後藤 俊介(庄内総合)

専門部を訪ねて(第三十四回) ライフル射撃専門部 規孝 委員長

頑張っています

新庄神室産業高校

本校は新庄農業高校と新庄工業高校が統合して開校二年目、新しい伝統を創るつもりでいる元気があふれる部です。

「めざせ栄光を合言葉に全国大会でのメダルを目指して頑張っています。」

部員も総勢三十八名と多く、中でも女子ボクシング部員を有することで単独の存在です。十五年四月にボクシングリングも完成し、素晴らしい練習環境が整い、着実に競技力も向上し、インターハイではベスト8と活躍し、東北高校選手権大会では、学校対抗三位と新しい学校を印象づけることができました。



ボクシング部

ボクシング部

た、「優勝」のために努力を重ねていきたいと思えます。

日本大学山形高校

昭和五十三年に愛好会として発足、これまで昭和五十八年から連続六回と平成十一年にインターハイ出場したものの、部員不足で苦戦しながら地道に活動を続けてきました。

部員は現在十四名、経験者は一名のみで、他の球技歴をもつ選手で構成されています。大会等で本来の力を発揮できない弱点を、多くの対外試合と徹底的な基礎練習で克服したことが、新人戦優勝に繋がりました。

「直往直来」をチームの合言葉に、冬場は基本の反復と体力強化のトレーニングを行っています。



女子ハンドボール部

女子ハンドボール部

来年度の県高校総体に向け、仲間と共に心をひとつにして頑張りたいと思えます。



来年度期待される学校、最近

Q 県内高校ライフル射撃部のチーム数を教えてください。また全国と比較してその規模はどうでしょうか。

A 山形県内の高校で部活動として活動しているのは、山形城北高校と南陽高校の二校です。部員数の規模は全国平均です。部数の一番多い県は神奈川県で十一校、次に茨城、千葉県が七校、岐阜、徳島、長崎県が五校と続き、全国で約一、五〇〇名の高校生がライフル射撃の部活動に参加しています。

Q 山形県のライフル射撃競技のレベルは全国と比較していかがですか。

A 全国高校ライフル射撃選手権大会・全国高校選抜大会・国民体育大会において数々の優勝、入賞を果たしており、更に日本代表として韓国・カナダ・ドイツ・オランダへの海外遠征にも派遣されるなど、山形県のライフル射撃競技は全国の上位レベルにあります。

Q 平成十七年度活躍が期待される学校、並びに最近力をつけてきた学校等について教えてください。

A 県内の高校生に向け、何か広報したいことがありましたらお願いします。

Q ライフル射撃は第一回アテネオリンピックから正式種目になっており、参加国数は陸上競技について多く、世界では大変盛んなスポーツです。日本では「銃」の危険と連想されがちですが、ルールを守れば大変安全なスポーツです。銃と連想されがちですが、ルールを守れば大変安全なスポーツです。銃と連想されがちですが、ルールを守れば大変安全なスポーツです。

1987年~88年(昭和62年度)

インターハイ・ボクシング ライトフライ級優勝
日本大学山形高等学校 安藤 雷太 選手

ライトヘビー級優勝
加藤 欣也 選手
(写真は加藤選手 高体連32号より)

インターハイ・登山男子優秀パーティー
米沢工業高等学校

女子優秀パーティー
米沢東高等学校
(写真は米沢東 高体連32号より)

団体・レスリング フリー 88kg級優勝
山形市立商業高等学校 工藤 雅好 選手

私はタックルを切るのには自信があり、優勝する意識は相手より勝つと思いい、緊張しながらも自信はおおいにあった。14対1になった時、試合をしながもうれしかった。
(高体連32号より)

インターハイ・国体スキー 大回転優勝
日本大学山形高等学校 岡崎 若華 選手

インターハイでは大回転に優勝し、国体でもジャイアントスラロームの少女女子の部に優勝した。女子アルペンの全国制覇は10年ぶりのことである。
(高体連ニュース第4号より)

山形スポーツ 第四回

今昔

最近話題の本県出身選手を紹介し、現在の高校生(二年生)が生まれた十七年前の先輩たちの栄光の記録をたどってみました。

2004年~05年(平成16年度)

カヌー
竹屋美紀子選手
谷地高校出身(谷地高校)

5月14日...アテネオリンピック アジア大陸最終予選会 (石川・小松) K-4 優勝

6月25~27日 ...ワールドカップ(ドイツ) K-4 8位

8月23~27日 ...アテネオリンピック K-4 9位

9月11~14日 ...国民体育大会夏季大会 500M 3位 200M 2位 K-1

野球
梅津 智弘 選手
山形明新館高校出身(国学院大学)

通算勝数24勝9敗(平成16年度は春が6勝1負、秋が3勝2負) 最優秀投手賞(東都大学野球2部リーグ)H15秋季リーグ戦功労学生賞受賞(H15.2.12) 完全試合達成 広島東洋カープドラフト6位入団

自転車
齋藤登志信選手
山形電波工業高校出身(日本競輪選手会)

6月29日...G ふるさとダービー館 優勝
9月23日...G オールスター西武園 5着(オールスターで通算200勝達成)

12月30日...競輪グランプリ04出場 5着
平成16年賞金ランキング7位
2月24日...東王座決定戦
3月16日...日本選手権

一部写真は、山形新聞社より提供していただきました。